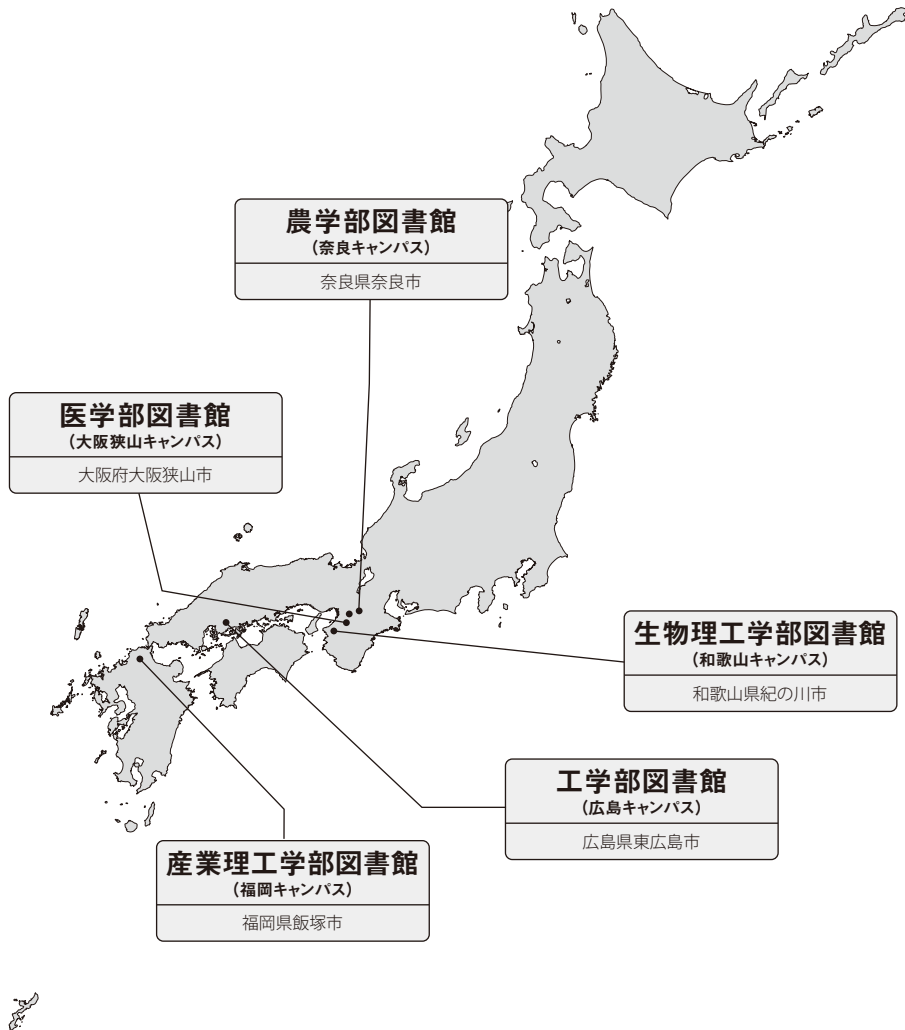


各キャンパス図書館めぐり



読書のすすめ：

大規模調査で分かった

現代イギリスの「7つの階級」

産業理工学部 教養・基礎教育部門
教授 江口 誠

1. はじめに

イギリスと言えば、フィッシュ・アンド・チップス、ローストビーフやアフタヌーン・ティーを思い浮かべる人が多いかもしれませんが、『ハリー・ポッター』の世界観や、アニメ等の影響でイギリス紳士、貴族、執事やメイドなどを連想される方もいるでしょう。紳士や貴族は上流階級というイメージでしょうか。産業革命頃、イギリスには上流階級、中産階級そして労働者階級の3つの階級が存在していたと学んだことがあるかもしれません。これらは、主に職業による階級制度の捉え方ということになります。また、『ハリー・ポッター』の登場人物に喩えれば、純血の一族であるドラコやロンが育ったマルフォイ家とウィーズリー家は上流階級、そうではない家庭で育ったハーマイオニーやハリーは中流階級といった感じでしょうか。¹

そこで「今でもイギリスに社会階級は存在するのか」とふと疑問に思われることでしょう。今回は、まずイギリスの階級制度が書かれている幾つかの入門書等を紹介した後、BBCが2011年に実施した大規模調査のデータから分かった、現代イギリスの「7つの階級」に関する本を紹介します。このコラムで、少しでもイギリス文化について興味を持ってもらい、関連する本を手にとって頂ければと考えています。

2. 社会階級とは

私のゼミでも使用しているイギリス文化の入門書『イギリス文化55のキーワード』では、イギリスの階級は「上流階級、成金、中産階級上層、中産階級中層、中産階級下層、労働者階級」の6つに分類されると書かれています。それはかなり複雑であるとしながらも、

その分類法が今では「標準」とのことです。² 6階級といっても、概ね産業革命期以降の伝統的な3階級の認識を踏襲したものと捉えてよいと思われます。

『イギリス文化入門 [新版]』にも、「社会階層については様々な見方があるが、大きく分けてアッパー・クラス（上流階級、貴族）、ミドル・クラス（中産階級、デスクワークの多いホワイトカラー）、ワーキング・クラス（労働者階級、肉体労働のブルーカラー）の三つに分類される」と書かれており、この点については上記の入門書とほぼ同じ認識のようです。ただし、これらの職業区分に加えて、時代による階級意識の変化、特に教育、家計や話し方などの文化的要素、さらには居住区との強い関連や社会階層間の可動性についての指摘が特徴的です。³

ここで、イギリス貴族について少々触れておきたいと思います。『貴族とは何か—ノブレス・オブリージュの光と影』では、古代ギリシャ、古代ローマや古代中国以降の貴族の形成及びヨーロッパにおける貴族の興亡についての説明に続いて、イギリス貴族の成り立ちについて書かれています。一般的には「貴族＝ジェントルマン」と認識されがちですが、イギリス貴族は公爵、侯爵、伯爵、子爵と男爵で構成される世襲貴族とその下に位置づけられるようになった地主階級のジェントリの2種類に分けられます。因みに世襲貴族はかつて貴族院に多くの議席を持っていましたが、労働党トニー・ブレア首相による貴族院改革によって議席数が激減し、代わりに男爵の地位が与えられるが世襲ではない一代貴族が多くの議席を占めることになった経緯があります。⁴

3. 『7つの階級：英国階級調査報告』

英国放送協会 BBC が2011年に実施し、2013年に公表した英国階級調査（Great Britain Class Survey : GBCS）の結果をまとめた『7つの階級：英国階級調査報告』を紹介したいと思います。結論としては、現代イギリス

には、エリート（6%）、確立した中流階級（25%）、技術系中流階級（6%）、新富裕層労働者（15%）、伝統的労働者階級（14%）、新興サービス労働者（19%）、そしてプレカリアート（15%）の7つの新たな階級が存在するということが分かりました。プレカリアートについては後ほど説明します。⁵

本書にも書かれています。この順序はあくまで経済資本の順位で並べられたもので、ヒエラルキー、つまり階級の上下を表しているものではないという点をまず理解しておく必要があります。また、これらの階級には、スキルや知識などの専門知識が強く結びついていることも特徴的です。大きく分けると、エリートとプレカリアート、そしてそれ以外の中間層、という括りになるかと思われま。エリートは「経済資本」がずば抜けて高いことは言うまでもなく、バレエ、演劇やクラシック音楽などのいわゆる「高尚な」趣味が特徴的な「文化資本」、さらには同類の人々との社会的な人脈のネットワークが強い「社会関係資本」の3種類の資本を高いレベルで持ちあわせている人々を指すのであって、伝統的な階級の捉え方とは異なり、特定の職業で特徴付けられるものではありません。因みに平均的なエリート層の世帯収入は約1,600万円（89,000ポンド）、世帯貯蓄は約2,600万円（142,000ポンド）、そして住宅資産は約6,000万円（325,000ポンド）となっており、人口の約6%に過ぎません。

では、プレカリアートとは、どのような人々を指すのでしょうか。この用語は「不安定な」(precarious) という意味の単語と労働者階級を表すプロレタリアート (proletariat) から作られた造語のようで、いずれにせよ、イギリスの人口の15%をも占めているのは大きな問題ではないかと思われま。プレカリアートは、収入が極めて低く、借家住まいで、自分たちより高い階級の人々との社会関係資本も乏しい人々で特徴付けられています。因みに平均的なプレカリアートの世帯収入は約150万円（8,000ポンド）、世帯貯蓄は約19万

円（1,000ポンド）、そして住宅資産は約500万円（27,000ポンド）となっています。

階級格差について考える際に重要な点は、社会流動性という観点ではないかと思われま。ではどのようにすれば、上層階級に移動できるのでしょうか。また、社会階級の流動性を阻害している要因があると思われま。それは何でしょうか。まず、これは容易に想像できるかもしれませんが、出自によってかなり左右されるという点です。本書ではそれを山登りに喩えています。エリートの山頂は高く険しく、凍てつく寒さのため、専門知識という装備が必要になります。恵まれた家庭に生まれた人たちは、山頂に近いベースキャンプから出発し、山登りに慣れた登山隊の助けを得ながら、しっかりした装備を身につけて悠々と登頂することができますが、そうではない家庭環境で育った人たちは、登山の装備を購入する費用が必要で、強い意思を持って、山の麓から登頂を目指す必要があります。しかも現代のイギリスでは、エリートの優位性が近年ますます上昇していることに加え、地位の高い職業に異動することも困難になりつつあるようです。

また、教育環境も重要な要素だということが分かりました。ただし、ここで注意すべきは、単に大学に進学することでエリートに近づくのではなく、オックスフォード大学やケンブリッジ大学を含む研究型の国立大学24校で構成された、いわゆるラッセル・グループ (Russell Group) の卒業生の優位性が示されているという点です。そしてその出身大学が、その後の3つの資本の蓄積に強く結びついているのです。つまり、現代イギリスにおいては、出身大学という要素が社会のヒエラルキーに直結していると考えても間違いではなさそうです。

4. おわりに

BBCによる大規模調査では、産業革命期以降の伝統的な見方とは異なり、3つの資本という視点によって、社会構造の変化に即した

現代イギリスにおける新たな社会階級の捉え方が提示されました。但し、それを受け入れるかどうかは、また別の問題かもしれません。翻って、今日の日本の現状を見てみると、どうでしょうか。イギリスと比較すると社会階級の意識は希薄なのかもしれませんが、格差という点では共通することが多いと思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

最後に、もしこのBBCによる英国階級調査に興味を持った人がいれば、以下のサイトで上記の3つの資本の観点から自己診断が可能ですので、アクセスしてみてください。

BBC: The Great British class calculator

(https://www.bbc.co.uk/news/special/2013/newsspec_5093/index.stm)

注

- ¹ 坂口薫子（2015）. 「ハリー・ポッターのイギリス（2） - 『ハリー・ポッター』と現代イギリス社会における階級問題と政治」. 『日本女子大学英米文学研究』、50、71-89.
- ² 新井潤美（2009）. 「11階級 - 話し方ですべてがわかる」. 『イギリス文化55のキーワード』. 京都：ミネルヴァ書房.
- ³ 小川公代他（2023）. 「第10章 イギリスの教育と社会階層」. 『イギリス文化入門 [新版]』. 東京：三修社.
- ⁴ 君塚直隆（2023）. 『貴族とは何か - ノブレス・オブリージュの光と影』. 東京：新潮社.
- ⁵ マイク・サヴィジ（2019）. 『7つの階級：英国階級調査報告』. 船山むつみ訳. 東京：東洋経済新聞社.